

地域おこしを手伝ってくれる人たちが、
大崎町に移り住みました。

はじめまして! ↓ 地域おこし協力隊です

本町では平成28年度から「地域おこし協力隊」を導入し、これまで11人の隊員がにぎわいづくりや不登校支援などに取り組みました。今年度4人の隊員が大崎町に移り住み、活動を開始しています。どんな人たちがやってきたのか、紹介します。

鹿 児島県出身の二児の母です。これまで留学や国際結婚を通してたくさんの異文化の素晴らしさに触れてきました。語学の大切さを感じ、子どもたちに語学を教えています。外国人技能実習生をはじめ、大崎町に住んでいるたくさんの外国人の方々と、日本人の方々が同じ町民として楽しく仲良く暮らしていける町づくりを考えています。子どもたちの未来のために、国際的な教育のお手伝いもしていきたいです。



今 年の4月から大崎町に移住してきました。韓国・中国出身です。日本に来て16年になります。これまでさまざまな場で通訳・翻訳業をしてきました。大崎町は、オリンピックを通して台湾のホストタウンになっています。自身の専門であるスポーツと中国語を活用し、台湾との交流をもっともっと増やし、スポーツ合宿など、これからたくさんの人を大崎町に呼び込んでいきたいと思っています。

「美 味しく食べて竹林整備」
東京都出身です。広島県職員として地域コミュニティと関わる中で、人口減少下における地域コミュニティのあり方、竹材の利用促進、障がい者や高齢者の働く機会の創出に関心を持つようになりました。竹林面積日本一の鹿児島県。管理されず荒廃した竹林を活かしたい。その思いから、「竹林整備→無煙炭化器による竹炭製造→竹炭を圃場に散布→サツマイモ栽培→干し芋製造」の取組を行います。皆様も炭づくりをしてみませんか？



ベトナム出身のユキです (Tuyet (トエット) は雪という意味)。今年の3月に鹿児島大学院を卒業し、7月から大崎町の地域おこし協力隊として働くことになりました。外国人と日本人の多文化共生環境を作るため精一杯頑張ります。日本の風景、食文化に興味を持ち、また農業を勉強するため19歳から来日しました。それから7年半ずっと鹿児島に住んでいます。なので、鹿児島は私にとって第2の故郷と言えますね。大崎町で働っこができてっせえ、わっせえうれしかど！

地域おこし
協力隊とは

地域おこし協力隊は平成21年度に国がつくった制度で、都市から地方への人の流れを創り、定住・定着の支援をしながら地域の活性化に貢献してもらうという仕組みです。全国の1,085自治体で導入され、隊員数は約6,000人にのぼります。(令和3年度)